

受付番号

5

許可番号

大歯医倫 第 111100 号

研究課題名

小児における新しい口腔運動機能発達検査の有用性に関する疫学研究

研究責任者

三宅 達郎

申請者

松井 正格

研究終了日

2024 年 3 月 31 日

所属

口腔衛生学講座

所属

歯学研究科

口腔衛生学専攻

職名

主任教授

職名

大学院 2 年生

申請の概要

食べる喜び、話す楽しみ等の QOL（生活の質）の向上を図るためには、口腔機能の維持が重要である。現在、口腔機能に関する研究は、オーラルフレイルが注目されているように、主にその機能が低下しやすい高齢期において盛んに行われている。

しかし、ヒトは、乳幼児から学齢期にかけて、口腔・顎・顔面の成長発育および適切な口腔機能を獲得するため、生涯、口腔機能を維持するには高齢期の対応では遅く、乳幼児期からのライフコースアプローチが重要であることが指摘されている。とくに、小児期の口腔機能の獲得については明確な基準値もなく、評価が困難であるのが現状である。

本研究の目的は、従来から言語聴覚士の分野で使用されている随意運動発達検査の改良を行い、3 歳から 10 歳（満年齢とする）の幼児、児童を対象とした口腔運動機能発達検査を開発することである。口唇・舌・頬・軟口蓋・顎について、いくつかの評価項目を作成し、それぞれの 90% 通過年齢（90% の対象者が達成できる年齢）を算出する。また、同対象者

---

について歯列、構音、咀嚼機能の評価を併せて行い、口腔運動機能発達との関連を調べる。

本研究により小児が当該年齢で獲得されるであろう口腔運動機能の可否を評価することが可能になり、早期治療を行うか否かの診断ツールになることも期待される。